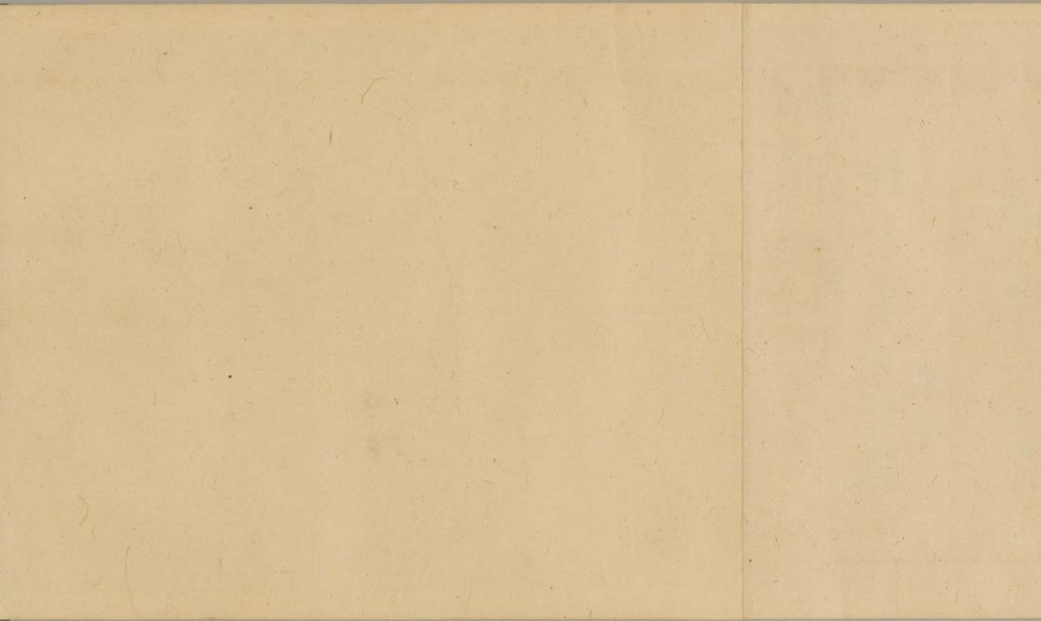


春浪遠篇  
与田原

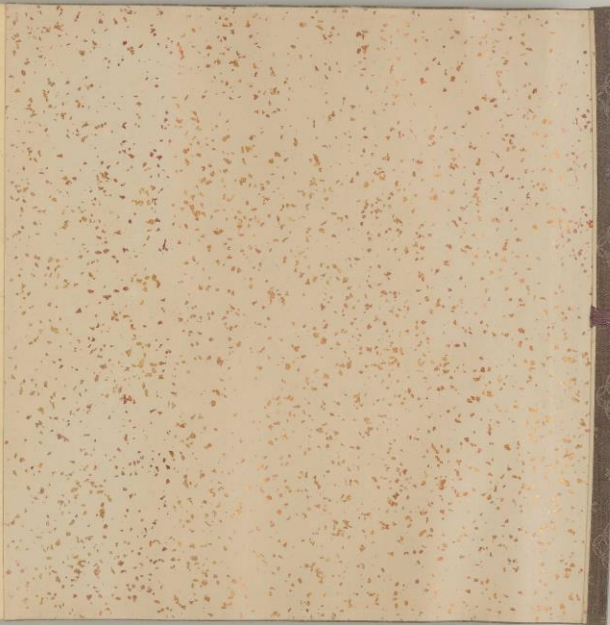
18  
61





日本橋區本町三丁目  
 博文館編輯部  
 坪谷善四郎様  
 親展

府下荏原郡大井町  
 一八四四庚申  
 早下 柳川春浪





府下佐原郡大井町  
八八四番地  
早稲子 柳川春浪

拜読 本日のお天気も見る  
にうけし 残念と不堪美白日  
醜業婦のテコ無行列を  
許し 神聖ある志中同業  
法若布 記念日に 藝者  
の馬鹿蹄も公示せしめし  
平然下り 当ら者か 若も一  
石士気の 興奮のなめ 耶  
かにしも 工大 献て人とする 北帯  
に向つて 何事 保進もかへん  
とほせざ 却つて 其職権を 證  
明し 到底之れを 尋行す 能  
はざるか 妙筆をかきよは  
小生等 微力と 異し 固と思  
ふ者の 如何にして 其意を  
解する 能はざる 文に 片せぬ  
今回の 振武大 競走の 俾  
考せざるは 巖谷比と  
少生の 名義も 内実も 意  
事少生の 考意に 成り 唯石  
巖谷比に 其契めを 乞ひ  
し 復し 同比には 一の 責任  
も 無之 失策の 責任は 全  
部 少生の 責任 あり 有と 考  
ふ 論 今回 失策は 比に 不  
可 抗力に 屬して 斯くの 如き 失  
策を ぬきしめしものは 居る 味  
にして 弁弁ある 当馬 あり



可抗力に難て斯くの如き失  
策を為さしめしものは愚心昧  
にして弁ある者馬鹿なり  
亡自断に出づると云し失策は  
飽き失策も十星は必ず  
其責任を及ぼさる可なりと  
確信せしれし十生は誠心誠  
意を以て以事に従へり吾方  
にこそ博文館の名譽と士氣  
の振作と雅法孝廉の言策  
たりと信じて力カセり次第に  
中坐矣今日雅法孝廉の言  
策は單なる廣告や言少  
内容の改良位を以て不充分  
也其雅法の本色を充分に  
發揮し吾方にも國家に  
工莫敵する處あり 確實と讀  
者の同情と感謝とも得ざる可  
かざるに信じて我が少壯年流  
者の畏も歎ぶべき手段も  
一あり二に於ては士氣振作  
の爲に聊かほつと工莫敵せんとせし  
に吾方の亡自断の干渉の  
爲に以て失敗を根くにさすり  
美實に残念に不堪博文  
館及び江田浩久に對して  
申訳なき次第は實に死し小  
生は今回の伸とつき全力を  
尽すに務むるに所せぬ而して  
十名の力一儀に盡す家法  
執誠を以て此等に欠けし東  
西に奔走せし吾方同か相  
會し政界活の競走の場  
良策と安全法を取調へ又  
石室判信活のは貴重なり



會し政采治の競走の爲

良策と安全法も取調へ又

及審判信法は貴官より

時をも愛し徒歩しし爲軍

に正し地理も踏正すし事

事務交左とひ一人の

競走者集るも競走法

は整然とし何事の過失も

危険も無く得んか不特に

恐おすは今日の競走者中

にこそ名も運命家は一二人

競走了と昔に一寸比較的未

熟練者保護の仕に者人と

申せり有る。かかき富の

判官申為はは今日の馬車

と辞し徒歩し競走者も

共に走ること富判せんと申せぬ

よかめき實に其熱氣に對

し感涙の涙なきと後す如る

に當馬者一常に社會の

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

31 32 33 34 35 36 37 38 39 40

41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

61 62 63 64 65 66 67 68 69 70

71 72 73 74 75 76 77 78 79 80

81 82 83 84 85 86 87 88 89 90

91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

101 102 103 104 105 106 107 108 109 110







或は王子をやり或は牛乳を  
飲十一ヶ月以上より執心  
疎習せし者俄然この中止  
をたま失望後隨て一教を  
免ふに刃がす又左傾く此等  
に契りし富新信運高家  
等が言くの下力と時了も盡  
し結果は矢ぬに終りを見  
て懐瀧一平教を見るに  
刃がす一更に博文館は  
今回の禁止は或は一種の  
度生とより一事も知るべ  
ずと果し小生の立場とし  
は小生の不敏なるゆゆ斯か  
る結果とより一事も知るべ  
其四罪を謝する可からず也  
は況んや斯等の結果天下  
の健児は向く江州の流る  
に向く又左博文館に向く

誠意を以て其四罪を謝する  
と道は譯よく責任を負ふに  
曰く後世界を前住するの  
至当なるも確信は美小生  
去る廿七年博文館に入  
つこより茲に六年天性  
放漫にして書く屋敷処無  
かりに拘らず博文館が  
常に優遇をかへりし事  
は誠心誠意を以て感謝  
する処に有る美大橋館  
主の恩義は小生死す  
とは忘れず事下なき最  
谷氏の存も詭は終生忘る  
べし然るに有る美今や  
曰く後世界は僕俤にして  
聊か進運の途にありし也





純はたしむる処に有と云々  
日向没世思は僥倖にして  
聊か進運の途にありや生  
は及ばず死か之れより  
まずく如力至ると期  
し居りしもの此際之に別  
るは子に別るべし  
幸しと云も天下の健児  
と読者も又右思義ある  
文館に對して小生の罪を  
謝するの道如何に考へ  
ぬ他に世之何事にして男  
子は責任を及ぶべき場合  
には涙を揮る其責任の  
様程と云ふも名も確確位  
はつと云ふ誠にく相済ま  
ぬ候に云へし大折籠まへ  
十生の意申す法の上  
何卒く此仲事決定  
下さるるを小生等の上  
申上ぐるが至當に云へし  
何れも市教を拜一口上  
に申上ぐるは何れと云く  
きまり要く欠礼を致す  
り書面をもつて貴意を申  
上げ明日に申上らるる  
事柄記が申上り向滯り  
は日向没世思も貴意の如く  
思ひ居るもの確に左に  
も決して無責任なる事柄  
致す下陰を致す未結了限  
りのゆ力を討て存存  
此月号も若かりき決して  
間違なきまゝに貴意も



りのゆ力を試し存存  
土内号も若わりの事決し  
間違ふまじく言ふ事位も  
是すは一日の事と爲す。  
事には此辭位は今内十  
りといふ一語も此種  
就供申上げ實に一箇立  
はじめ先世の法に相傳  
ぬ儀に其一事の心事  
序終 ~~承~~ 承下される事  
福は後位者は佛心者  
有と云ふは幸福に云ひ  
佛都念に云ふは高化者  
と思ふものニミ名佛心  
可申上何卒先方の  
申曉る人の申し  
曰は世世のますく若  
衆又事も神かけ祈り  
居申し福は又尼齋本  
此は个回の御まつ事  
亦申し心配致し居方が  
曰は此身誠實に全力  
も尽すべしもの也に此も  
失策なくみだ美化世を  
是つて一箇一回の辭位  
言申出るといふ事切に  
佛別居りの程を致し  
餘は拜后の上申上更  
にりたる 敬具

柳川春浪

坪谷善治  
印  
印  
印

卷之八  
詩經

卷之八

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經

詩經



坪谷善治印  
伊文

坪谷善治印

善治印

三  
光

謹啓

己に圖書印の方

一五依表

久七

物問

接し

介の儀

以多

張紙

以郵

何字

筆を

了

何



揮毫 三十七日 何

三十一日 山内子也

謹啓

己て因事彼の方

一區依来中して

久も七より人

物聞らるはすれ

よ接し友をく

介の候中おるる

は多又司の際正

張紙をばり本。

は郵へ事上し

何事一は念らん

筆を賜り中

うはすあ

ははは

二四事

実日人

如新

三 鳥山

鳥山







本郷区本郷五丁目  
三番地所方

二十三。 大澤子五八

拝啓

返書は所多忙の際系上  
より失禮なれども存心  
せらるる廣島へ書簡を  
しん蒙今更返詞を  
其是呼は岡下の許へ  
いそあまと同ドも  
定んたぞぞ

次は北海道の北海道の  
小沢の件 甚な些端の  
子馬座心得共岡下  
状一通所投函社下  
亦其意味は田村君  
依頼す可きの所大澤  
依頼し一回 (都合係り)

三十五銭の事 百中福科  
は出張所へ之渡す事  
とやうに 千餘度には  
本日官澤の来り 届稿  
三十四と渡し 其更糖料  
も委有り 小沢力にて  
氏事務上の都合日依り  
在所掛函の係岡下  
るく小沢と申し故御  
おから 懇切申上  
先は要領を 能く押

牛込區矢妻町三番地  
坪倉善四郎様  
親展

布御区令御  
三月廿九日  
三番地所方  
大澤天仙

拝啓

返日は馬多忙の際事上  
けり失禮に付し候  
等々も廣島へ書面を申  
し候事今日返詞を申  
其差申は岡下の許へ事  
候事等と同トも事決  
定した事候

次は北海道の北海道事  
候事候 甚合此候事  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下  
候事候 俾共岡下

坪倉永哉様  
大澤天仙

子馬座心得共周下  
四角形(一)

状一通 坂田社下 慶應

亦其意味 坂田村 子

依頼す可きの所 大澤子

依頼し一回 (都合係り)

三十五銭の事 坂田村

は出浪所之 渡す事

とや 子 取度は 其は

本日 官澤 白 車り 鳥糞

三十四 土 層し 其 草 糞 糞

七 委 取 り 小 次 力 に 官 澤

氏 事務 上 の 都合 日 子 依 り

右 所 指 画 の 儀 周 下 子 取

ふ ぐ 小 水 と 申 小 取 取 取

お 分 ら 親 心 取 申 上 子 事

又

先 生 要 用 事 を 餘 年 押

眉 の 階 弟 子 一 子 下

領 音

二 十 三

七 保 三 仙

坪 谷 水 哉 次 郎

